

令和 7 年度上半期 スケジュール

企画展「めぐる 植物のかたち」

令和 7 年 7 月 22 日（火）～ 12 月 19 日（金）

開館時間：9:00 ～ 17:00（最終入館 16:30） 土曜日・日曜日・祝日は休館

風にそよぐ柔らかくしなやかな植物は、かつて暮らしの中で様々なかたちに転用され、産業の中で多用され、暮らしの中に根付いていました。すすき・稲・麦・麻。土地の資源を利用・循環させる生活文化について、その豊かな造形の魅力を鑑賞していただく企画展です。茅葺き屋根の葺き替えを中心にご紹介します。

北小木川の草刈

場所：北小木川 期日：令和 7 年 5 月 18 日（日）9:00 ～ 雨天の場合は翌週に延期

市天然記念物「北小木のホタル」の住みやすい環境作りのため、北小木川の草刈を実施します。ボランティアにご協力いただける方を募集しています。詳細はホームページをご確認ください。

北小木のホタル生息数調査

場所：北小木川 期日：令和 7 年 6 月毎週月曜日・木曜日 20:00 ～ 雨天の場合は中止

ゲンジボタルの数を歩きながらカウントするボランティアにご協力いただける方を募集しています。詳細はホームページをご確認ください。



写真（上下）永保寺五峰庵屋根葺き替えの様子

多治見市教育委員会 文化財保護センター 収藏品データベース

🏠 施設トップ > 収藏品一覧 > 資料情報

🔍 検索 🔍 絞り込み 📄 印刷 📄 共有

志野茶碗

資料番号 : 陶015

よみがな : しのちやわん

法量 : 器高8.5cm 口径13.0cm 高台径6.0cm

頁数 : 1

備考 : 筒形に焼き、胴部と口部に段差を付している。高台は低い、滑り出し、輪高台で、高台脇を斜め切込している。内面胴部には三ツ目のヒン像がある。鉄線で側面には重なり、草文・樹（か）などを描いている。長石種を高台を削いで付けている。一部分割取したところがある。（『研究紀要第4号』）

年代(和暦) : 桃山

年代(西暦) : 16～17世紀

Powered By: I.B. MUSEUM SWAS

収藏品データベースをオープンしました！

多治見市教育委員会所蔵の収藏品データベースをWebで公開しています。公開する収藏品は随時追加予定。ぜひチェックしてみてください！

<https://jmapps.ne.jp/citytajimi/index.html>

自然と人の文化

No.65 2025 年 3 月発行

編集・発行 多治見市文化財保護センター

発行部数：1,300 部（税込 60,632 円）

この冊子は環境に配慮した紙・インクを使用しています。

Instagram



X



ホームページ



アカウントは @tajimi_bunkazai

多治見市文化財保護センター

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-26

TEL (0572) 25-8633 FAX (0572) 24-5033

E-mail hogo-cen@city.tajimi.lg.jp

開館時間：9:00 ～ 17:00（最終入館 16:30）

休館日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始

入館料 無料

<https://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>

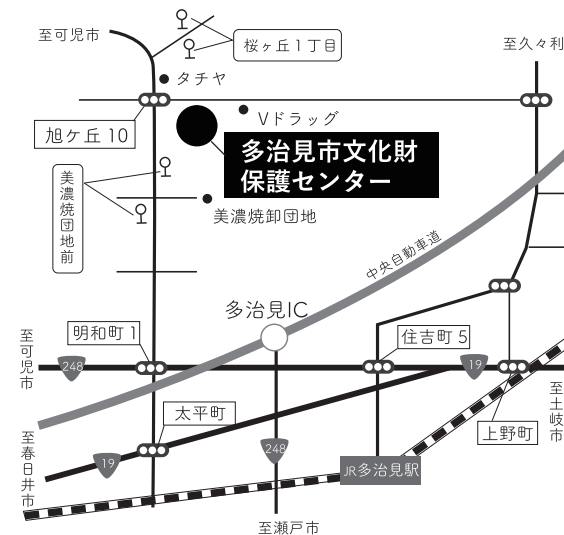
ACCESS

自動車

多治見 IC より車で約 10 分

電車・バス

JR 多治見駅北口より東鉄バス（名鉄緑台線・桜ヶ丘ハイツ線または緑ヶ丘線）に乗車「桜ヶ丘 1 丁目」または「美濃焼団地前」下車・徒歩 5 分



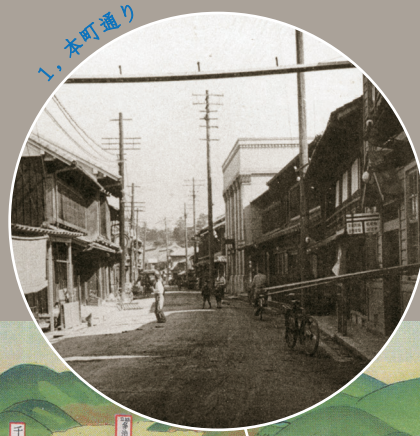
自然と人の文化

多治見市文化財保護センターだより No.65 2025.3

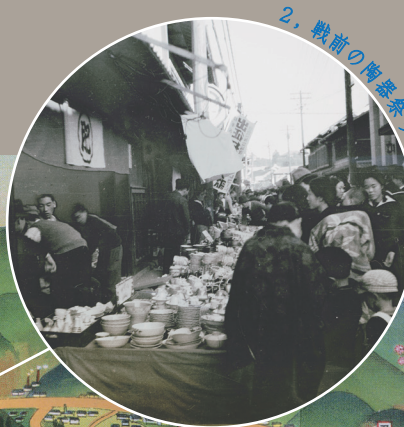
陶器商のまち

美濃焼の生産・流通が盛んになる江戸時代末期。仲買人とも呼ばれた陶器商が名古屋、江戸、大坂（大阪）をはじめ、全国に美濃焼を販売しました。特に現在の多治見市本町オリベストリート沿いには、明治時代になると 20 軒を超える陶器商が立ち並び、全国から買い付け業者が多治見を訪れるなど、街は大変賑わっていたといわれます。

1. 本町通り



2. 戦前の陶器売り



3. 荷馬車で運ばれる陶器



4. 多治見橋



5. 多治見駅

陶都多治見図絵 昭和 4 年（多治見市教育委員会所蔵）

大正時代～昭和初期にかけて活躍した鳥瞰図絵師・吉田初三郎が描いた「陶都多治見図絵」。当時の旅行ブームの中、全国の観光パンフレットを手がけた。架橋間もない昭和橋、記念橋、笠原鉄道なども描かれている。

- 1、3～5 多治見市図書館所蔵
- 2 個人蔵

明治 10 年代になると陶業会社の創業が相次ぎ、多治見を中心に多治見に 50 軒の陶器商があり、その総出荷数は年間約 35 万俵、うちが 1 万俵を超える大店は山久、山新、満留寿、山カ、満留肥、山松など 1 軒。また、池田町屋村から移転した山竹日比野新七商店は、上海に支店



商と呼ばれる商人が増えていきます。明治時代末には金貨は 100 万円を超えていました。このうち年間出荷数 10 万枚あり、大阪や東京、名古屋に支店を置く店もありました。金貨の置き、いち早く海外販路の開拓に乗り出していました。

土・日・祝日は休館 特別開館日 6/1（日）

【写真②】 右肩の剥落止め 修理前（左） 修理後（右）